

平成28年度 第1回恵庭市水と緑のまちづくり審議会（議事要旨）

日 時：平成28年8月30日（火）10：30～12：00

場 所：市民会館（2階） 視聴覚室

出席者：【委員】（9名）

内倉 真裕美・内田 信一・岡本 浩一・尾谷 百合子・斉藤 浩二
豊田 栄・野原 聡・三浦 真吾・山口 裕美

【市】（7名）

（市長）原田 裕・（企画振興部長）後藤 昭悦・（企画振興部次長）大槻 雄二
（建設部長）浅香 正人・（建設部次長）石川 義晴・（管理課主幹）萩原 由紀夫
（管理課主査）廣瀬 新

【事務局】（3名）

（まちづくり推進課長）岡田 貴裕・（まちづくり推進課主査）遠藤 美樹
（まちづくり推進課主任）安藤 友晶

【傍聴者】（1名）

欠席者：【委員】（4名）

池永 允子・岡田 宏一・三鍋 良平・吉田 愛子

恵庭市水と緑のまちづくり審議会（第15期）会長に野原委員、副会長に斉藤委員が選出された。
議事に関する意見の概要は以下のとおり。

議事1. 恵庭市役所公共施設花づくり基本指針（素案）について（報告）

（事務局より「恵庭市役所公共施設花づくり基本指針（素案）」について報告。その後意見交換）

（A委員）

指針の最終的な検証はどの部局で実施するのか。予算がないところはやらないと思う。それぞれの所管に任せるのは危険ではないか。

（事務局）

各課で整備計画・運営計画を作成し、企画振興部で検証することを考えている。

また予算面では、ふるさと納税、基金等を活用できないか検討すると共に、財団などが実施している事業の活用も視野にいれたいと考えている。

（A委員）

花は一度植えると、管理などの費用が前年以下になる事はない。運営管理のための予算の確保をどのようにするかは将来に繋がる問題だと思う。

（B委員）

指針全体のマネジメント（運営管理）をどのように行うのか。住民の方が花を楽しみ、その結果「花のまち」になるのが自然な流れ。「目的」の文章については修正をお願いしたい。

また、全ての公共施設を対象とするのではなく、対象を絞って行った方が良いと思う。

(事務局)

指針の運営管理は企画振興部で行う。「目的」の趣旨は、市民活動により「花のまち」となった恵庭市だが、これからは公共施設でもできることはやっていきたいというもの。文章表現については検討したい。

また素案では、全ての公共施設を対象としているが、観光施設や庁舎など、その役割、来訪者は様々であるので、花植えの内容は施設によってメリハリをつけていきたい。

(C委員)

企業が社会貢献として花植えを行う際、場所を探すのが非常に困難と言う話を聞いている。

「ふれらんど」などの施設を、企業が社会貢献できる場所としてPRするのも良い方法だと思う。

花植えなどを市民が関わる仕掛けについて議論すべき。「花のまち」だから、公共施設でも花植えをやってみようと言うのは安易ではないか。まず「花のまち」としての全体イメージをつくる必要があるのではないか。

(D委員)

恵庭市の公共施設は、他市に比べて花植えなどがされている印象がある。

この指針は、公共施設の花壇などの数を増やす事が目的なのか、それとも今ある花壇の中の緑をふやすということが目的なのか。

(事務局)

恵庭市は花のイメージがあるが、実際には花が植えてある場所の一部であるという意見を市民からいただいているところ。単に花を植えれば良いということではないと思うが、行政として公共施設の花植えに関する考え方や仕掛けを指針として出したいと考えている。

議事2. 街路樹の維持管理について（報告）

(建設部より「街路樹の維持管理について」報告。その後意見交換)

(C委員)

市民の方には街路樹の沿線への良い効果が知らされていないのではないか。景観上の話よりも市民の苦情を優先して切らざるを得ない事があると思う。

街路樹は市民の財産なのだという観点から、切った方がいいのか、保全すべきなのか、市民に知らせる機関が必要ではないか。

例えば横浜市では、街路樹の剪定などについてのQ&Aがホームページで公開されており、「日当たりが悪くなるという理由で街路樹を切る事はできません」と明記されている。市がきちんと答えられるものを整理整頓する機関が必要ではないか。

(建設部)

今お話があったような個別の事項については、市でも「切れません」と対応している。また、第三者に影響がある場合に剪定や伐採を行っている。

現在ホームページ等で市の考えというものは発信していない。今後検討させていただきたい。

(C委員)

恵み野にある幾つかの公園では、針葉樹等が切られた翌年に、全然葉が出てこなくなり、死んでしまった木も沢山ある。指定木にはなっていないものでも、切ってしまうと形が悪くなるものに対しては、どういう風に切ったらいいのかも含め考えて行く機関が必要と思う。

(会長)

現在は、市民の方々が街路樹の目的や恩恵より、日照が悪い等の不利益となるという街路樹の部分を非難する形になっているのではないかと思います。市の考え方や、街路樹を大切に人達の考え方を広く市民に伝えていきたいと思う。

(A委員)

担当の課には非常に多くの苦情が寄せられるが、それに対して、個人の判断、その年の判断、その時代の判断で解決しようとするのが問題と思う。街全体として、私達はこういう街路樹をつくっていくというものを持たないと、いつまで経っても解決しないと思う。

(会長)

マニュアルがある事で、安易な要求があっても、これに答えられると言う事が大事。その為には皆が一定の見解を持てるようなマニュアルをつくっておかなければ。

(A委員)

恵庭市の「緑の指針」から始まり、公園、街路樹、花など、トータルで花のまちづくりを進めないといけないと思う。花だけではただの平面。一体化、街路樹と花との調和が大切。

きちんとした指針を作って、一つ一つの樹種に対してどうするべきだということを打ち出して行けば、問題は解決するのかなと思う。

(建設部)

私共もそう言う指針が必要という認識ですが、必要な経費の部分でかなり不足しているため、なかなか統一した考え方でできないという面がある。

実際にはなかなか適正な管理まで行っていないのが現状だが、できるだけそういう形でできないか、検討していきたいと考えている。

(E委員)

剪定の時期について、落葉前、葉がついている時期に切るのは市民の方の声でそのようにしているのか。

(建設部)

はい。落ち葉に対する清掃が増えるので、落葉前に問い合わせが多く、対応している。

(E委員)

樹木にとっては、強剪定や切り方、切る位置、切る時期も問題になる。本州から来られた方は、雪が載った街路樹もすばらしいと言われますので、花の有無や樹形も含めて考え、北海道の独特の景観をつくっていけたら良いと思う。

(副会長)

今日の2つの議題は別々のものではない。花を考える時には必ず緑を考えなければいけない、一体的なものだと思う。街路樹も公共施設の一部として一体のものとして考えて、その中で具体的なマニュアルなり指針なりをつくる、あるいは、基本的な哲学とか理念とかをしっかりとまとめて芯をつくる、スタートの時に基本的なスタンスを踏まえていく必要があるのではないかなと思う。

(会議終了)